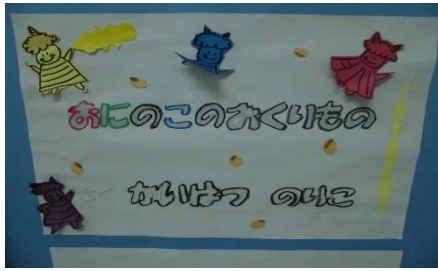


ぜんこうちょうかい はな
全校朝会でのお話し

「おにのこのおくりもの」というお話です。

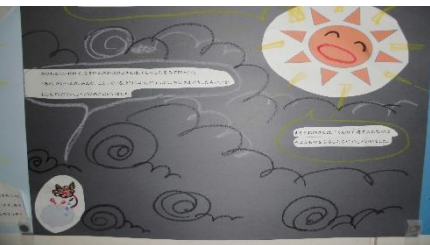


おにのこは^{そら}お空のくもの上でと
てもなやんでいました。「^{せつぶん}節分の
日はみんなにまめをまかれてだ
いきらいなんだ。ほんとはみんな

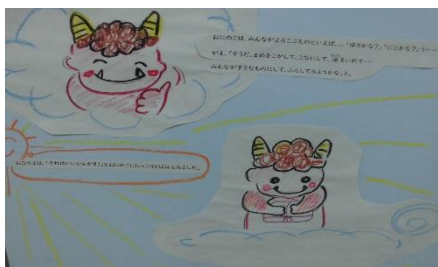
といっしょに、まめをまきたいのに。」



しくしくないっていると、^{くも}雲はどんどん真^ま黒^{くろ}の^{あまぐも}雨雲^{あまつぶ}となって^{まち}雨粒^{まち}をみんなの町
にふらせてしまいました。真^ま黒^{くろ}な^{あまぐも}雨雲^{あまつぶ}はカミナリグモにもなり、ピカピカどん
どんとみんなの^{ちやう}町^やに^ふ矢^ふのように降^ふってきました。



「おにのこさん、みんなこまっているよ!」と、^{そら}お空^{ひさま}の上^{ひさま}のお日^{ひさま}様が^{ひさま}言^{ひさま}いま
した。お日^{ひさま}様に^{ひさま}いわれて、^な泣^なき止^やんだおにのこさんは、^な雲^なの^なした^なを^なみて^なび
っくり。「あれ、たいへんだ。みんな、こまっている。どうしよう。どうしよう。」
「お日^{ひさま}様^{ひさま}どう^{ひさま}したら^{ひさま}いい^{ひさま}か^{ひさま}お^{ひさま}し^{ひさま}えて^{ひさま}く^{ひさま}だ^{ひさま}さい。」と^{ひさま}おに^{ひさま}の^{ひさま}こ^{ひさま}は^{ひさま}い^{ひさま}いま^{ひさま}した。



するとお日^{ひさま}様^{ひさま}は、「^{こうじやう}雲^{こうじやう}の^{こうじやう}工^{こうじやう}場^{こうじやう}で^{こうじやう}み^{こうじやう}ん^{こうじやう}な
が^{こうじやう}よ^{こうじやう}ろ^{こうじやう}こ^{こうじやう}ぶ^{こうじやう}も^{こうじやう}の^{こうじやう}を^{こうじやう}ふ^{こうじやう}ら^{こうじやう}し^{こうじやう}た^{こうじやう}ら^{こうじやう}ど^{こうじやう}う^{こうじやう}？」と
い^{ひさま}いま^{ひさま}した。おに^{ひさま}の^{ひさま}こ^{ひさま}は、^{ひさま}み^{ひさま}ん^{ひさま}な^{ひさま}が^{ひさま}よ^{ひさま}ろ^{ひさま}こ^{ひさま}ぶ^{ひさま}も^{ひさま}の^{ひさま}と^{ひさま}い^{ひさま}え^{ひさま}ば、^{ひさま}、^{ひさま}、^{ひさま}「^{ひさま}ゆ^{ひさま}き^{ひさま}か^{ひさま}な^{ひさま}？」



「にじかな?」うーんとかんがえ、「そうだ、まめをこがして、こなに^{ひさま}して、
油^{ひさま}と^{ひさま}ミ^{ひさま}ル^{ひさま}ク^{ひさま}を^{ひさま}入^{ひさま}れ^{ひさま}て^{ひさま}…」

みんなが好きなものにして、ふらしてみようかな」と。おひさまは、それはいいかんがえとおにのこにっこりと
ほほえみました。節分の日に、おにのこはみんなにおそらからプレゼントをふらしました。それをもらったこども
たちは、およろこび。ひとつぶたべて、とてもおいしいといってわらっています。おそらのうえで、おにのこは
にこにこです。おにのこはなにをつくったのかはみなさんのそうぞうにまかせます。

このお話は、こわいおにばかりではなく、やさしいおにもいるよと視野を広げてもらいたくて作り
ました。それを気づかせてくれたのは、掲示板のこの詩です。

「みちしるべ」

松本 春野 作

だいずがみちにおちています
ぽつんぽつんとおちています
たどっていってみえたのは
なみだをうかべたおにでした
これはかなしいみちしるべ
せつぶんのひの みちしるべ

